

# 条例に盛り込む内容整理の流れ（市民と行政の役割）

	条例に盛り込む内容案（事務局作成）	市民検討会で出された意見
市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの主体としての自覚を持つ</li> <li>まちづくりに関する情報を得る</li> <li>まちづくりに主体的に参加、協力する。</li> <li>市民相互で連携し情報を共有する</li> <li>地域に関心を持つ</li> <li>地域の課題解決に向け主体的に行動する</li> <li>市民活動への理解を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの定義とはどんなものか</li> <li>主体を「主体者」に変えてはどうか</li> <li>主体という言葉になじみがない。主体的、自主的といった表現はどうか</li> <li>情報に関して具体的にどのような情報なのか説明を加えてはどうか（例：行政の発信するまちづくりに関する情報）</li> <li>市民相互の連携、情報共有はどのようにやるのか、どのような状況かわかりにくい</li> <li>市民相互で連携し情報を共有する⇒コミュニティに参加するに変えては？</li> <li>地域とは？⇒町内？校区？自分が住むところ？</li> <li>地域の概念を具体的に書きたい。解説、但し書きを作ってはどうか</li> <li>どのような市民活動か？（例：地域のためになる市民活動）</li> </ul> <p>【その他の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長期的、多面的に根本的に考えて欲しい</li> <li>町内公民館の崩壊を主に協議し共有する</li> </ul>
行政の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>市政に関する情報を提供し、市民との情報共有を図る</li> <li>市民の市政への参加の機会を確保する</li> <li>市民に対する説明責任を果たす</li> <li>市民との信頼関係の向上に努める</li> <li>協働推進のための総合的な施策を策定する</li> <li>市民活動を支援し促進する</li> <li>市民の意向、意見を的確に把握し市政に反映させる</li> <li>計画的な市政運営を行う</li> <li>わかり易く機能的な行政運営を行う</li> <li>行政運営及び行政組織に関する改革に努める</li> <li>職員への研修を実施する</li> <li>職務能力の向上のために自己啓発に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市政に関する情報をわかりやすく提供し、市民との情報共有を図る</li> <li>参加の機会を確保する⇒促す、拡大する、つくる、担保するとしてみてはどうか</li> <li>市政を別の言葉に言い換える</li> <li>協働推進のための総合的な... ⇒表現がわかりにくい、説明が必要</li> <li>市民の意向...の前に時代的要請をという言葉を加えてはどうか</li> <li>行政運営、行政組織の改革に理由、目的が必要ではないか</li> <li>行政の役割にまちづくり、地域のキーワードがない</li> </ul> <p>【その他の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公平・平等な行政運営を行うを追加する</li> <li>まちづくりの専門家として地域活動に対して助言を行うを追加する</li> </ul>

条例に盛り込む内容の整理

条例原案

条例素案

# 大牟田市まちづくり基本条例 市民検討会ニュース

5号

情報共有のための課題解決について考える 第5回市民検討会開催！！



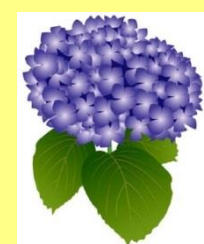
平成26年5月27日（火）に市役所において第5回まちづくり基本条例市民検討会を開催しました。前回の市民検討会で取り組んだ、市民と行政の役割について、課題の解決策の結果について振り返りを行った後、市民と行政の役割について、条例に盛り込む要素を5班に分かれてチェックし意見集約を行いました。

また、市民と行政との協働において大変重要なポイントとなる情報共有を進めるための課題について、どうすればスムーズに情報共有を行うことができるのか、ワークショップ形式で意見を述べあい解決策を探りました。次回の市民検討会では、これらの意見の分析を行い条例に盛り込む要素の確認と意見集約を行いたいと思います。

情報共有に関する伊佐先生の講評では、行政情報の共有化に関して方法や手間、コストなどといった様々な問題を解決するために、窓口業務で得た情報を蓄積しそれを活用するといった方法についてご紹介いただきました。

## プログラム

1. 開会
2. 前回の振り返り
3. 班分け
4. 意見集約について
5. 課題と解決策  
情報共有について
6. 閉会



# 情報共有のための課題解決策について

市民と行政とが情報共有を進めるため課題の解決策について、意見を出し合いました。これらの中には、市民ニーズに合った行政からの情報発信を求める意見が多く見られるようです。

## ○情報共有のための課題解決策

		解決策
1班	役立つ情報の収集と発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が望んでいる情報を把握する</li> <li>魅力ある情報、必要な情報をリサーチする</li> </ul>
	隣近所を通じた情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内公民館、自治会を通じて配布+町内公民館への加入促進</li> <li>各町内公民館を回って直接情報を伝える</li> </ul>
	情報発信・広聴の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合窓口Q&amp;A</li> <li>気軽に聞ける窓口や担当を作る</li> <li>広報、HP以外に情報発信する</li> <li>広報、HPの工夫</li> </ul>
	対話の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>本音で話せる場が必要</li> <li>HPの内容をもっと詳しく掲載する</li> <li>発言の場が必要</li> </ul>
2班	市民活動広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの情報HP（NPO活動、市民活動を掲載する）</li> <li>広報誌にNPOや市民活動団体から発信できる紙面を設ける</li> <li>NPO法人通信のようなものをつくる</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>欲しい情報が何なのかの情報をまず知る</li> <li>市民が欲しい情報・ニーズを把握する</li> <li>よくある質問をHPに取りまとめる</li> <li>窓口で欲しい情報を聞いてみる</li> </ul>
	新しいメディア活用の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域情報の共有、情報発信の工夫（ケーブルテレビ、防災無線、ラジオ）</li> <li>中高年にもIT研修する</li> <li>市民全員にタブレット端末を配布する</li> </ul>
	伝え方、表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門用語用にやさしいことば言い換え辞典をつくる（行政、市民協働）</li> <li>専門性の高い第三者に読んでもらう</li> <li>他の所管部局の人が理解できるか確認する</li> </ul>
3班	発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>わからない人がまわりに聞ける地域づくり</li> <li>情報が欲しい人が自分で取りに行くのは当たり前、ただ探しやすくする工夫が欲しい</li> </ul>

3班	受信	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット検索が出来ない人が多く、回覧板で出来ないか</li> <li>重要な情報ほど（わかりやすい）解説文をつける</li> <li>広報、HP等わかり易い言葉で興味をそそる紙面にする</li> <li>連載モノの記事を載せる</li> <li>広報を読んでもらうための工夫</li> <li>市民目線のタウン誌を作る</li> </ul>
	活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民意見に基づき実施した事業を公表する</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>得た情報を必要に応じ他の課へ提供する</li> <li>行政職員の地域への参加を増やし情報を収集する</li> <li>行政の方はプライドが高く感じる。市民となるべくコミュニケーションを...</li> <li>職員が自ら地域に入り、話を聞くだけではなく一緒に考える</li> <li>意見交換を町内公民館で。回数を多くできるから</li> </ul>
4班	発信の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここに行けばこの情報が得られるというキーステーション</li> <li>多様な手法（紙、データ、世代ごと）</li> <li>広報を市民が読みたくなるカラー、斬新なデザインにする</li> <li>発信手段の見直し（目的・対象に効果的な方法、双方向の仕組み）</li> <li>欲しい情報をすぐ見れるようもっと広報、HPを工夫する</li> </ul>
	情報内容を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報をもっとわかり易い区分にする</li> <li>生データだけではなく、市民の関心、危機感を高めるように目的、意識を持って発信する</li> <li>発信情報を目的、意図にそって構成する</li> <li>行政が発信したい情報だけでなく、住民が欲しがっている情報を提供する</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政のイベント、行事が重複しないよう少なくとも部内で調整していく</li> <li>欲しい情報をもっと簡単に受信できる手段</li> <li>行政内部の情報整理（過去資料のデータ化、ファイリングシステムの改革）</li> <li>みんなで集まって住む</li> <li>市役所の仕事を体験して意見をだしてもらう</li> </ul>
5班		<ul style="list-style-type: none"> <li>広報部を分ける</li> <li>行政と市民の情報部を作る</li> <li>新聞と連携した「市の広報誌」読み込みの啓発</li> <li>「お知らせだけではなく」市民の協力が必要な情報も意図的に出す</li> <li>個別の「知りたい」ニーズに応じるために、専門の部署を作る</li> </ul>
	広報のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報のめ切をもっと長くする</li> <li>広報誌の紙面の見直し充実</li> </ul>
	情報システムの応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛情ネットの周知</li> <li>HPの検索機能の充実</li> <li>市民IDを作る</li> <li>世間並みに恥かしくない検索機能は必要</li> <li>情報ツールの多様化</li> </ul>
	既存のネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校等を活用して家庭に伝える</li> </ul>

発行

大牟田市市民協働部市民協働総務課（TEL:0944-41-2690 FAX:0944-41-2552）

<http://www.city.omuta.lg.jp/shisei/shiminkatsudou/kihonzoyorei/machidukurijyourei-seitei.html>